

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日：2024年6月14日（金）

活動隊員：寺田 英子、宮前 繁

1. 活動期間 2024年6月11日（火）8時00分～2024年6月13日（木）17時30分

2. 活動場所

避難所：正院公民館（石川県珠洲市正院町正院22部2番地1）

珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

珠洲市立宝立小中学校（石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83番地）

応急仮設住宅：正院町第1団地（珠洲市立正院小中学校・石川県珠洲市正院町川尻1部39番地）

正院町第2団地（正院ゲートボール場・石川県珠洲市正院町正院2部1番地）

宝立町第1団地（珠洲市立宝立小中学校・石川県珠洲市宝立町鶴飼丑部83）

3. 石川県珠洲市の被害状況（6月11日14:00現在 石川県庁情報）

人的被害 死者：111人 うち災害関連死：14人 負傷者：重傷47人、軽症202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊：6,934棟 非住家被害：5,348棟

避難所開設数：26ヶ所 避難者数：376人

通水率：77.5%（3,715/4,791） 6/8現地での確認値

5/31早期復旧困難地区を除き珠洲市断水解消は水道管を示し、宅内上水配管の修繕ではない。

4. 避難所の状況

【避難者数】

正院公民館 6月11日：4人

大谷小中学校 6月13日：28人

宝立小中学校 6月13日：57人

【避難所運営及び生活状況】

1) 正院公民館 訪問日時：6月11日（火）13:00頃、12日（水）7:30頃

滞在中の方は、早朝仕事等で外出され、夜に戻られる。日中滞在中の方はいない。高齢独居の方が1名いらっしゃるが、生活行動は自立されているため、管理者等が見守りを継続している。日中は家の片付けにでかけられており不在であったため、早朝の訪問を試みたが直接はお会いできなかった。体調不良者はいない。

2) 大谷小中学校 訪問日時：6月13日（木）8:00頃

本部長よりお話をうかがった。避難者数は横ばいであるが、一時的な入所での増減はある。滞在中の方と一時的に入所される方の滞在環境は、分けて管理されていた。滞在中の方は、早朝外出、夕方以降に戻られ、日中の滞在者はほとんどいない。上水の復旧に伴い、仮設トイレの運用を停止されていた。また洗濯も、水の使用量を気にすることなく使えるようになったと話された。

3) 宝立小中学校 訪問日時：6月11日（火）15:00頃、13日（木）14:00頃

避難者数は、徐々に減っていた。日中は、仕事等で避難所内に滞在者はいない。自衛隊による入浴支援も継続されていた。本部チームによる避難所管理が継続的に行われていた。

5. 応急仮設住宅の状況

【正院町第1団地：正院小中学校グラウンド76戸】訪問日：6月11日（火）、12日（水）、13日（木）

集会所での「いっぶくせん会ね（お茶会）」は、週3回（火曜日・水曜日・木曜日）で継続的に開催されている。外部支援団体による企画、炊き出し等も行われていた。今後の催し物に関するチラシも複数掲示されていた。敷地内では、すれ違いの際に挨拶が飛び交い、井戸端会議をされている方、一緒に移動販売車で買い物をされている方など、以前より交流が盛んになっている様子があった。

【正院町第2団地：正院ゲートボール場28戸】

直接の訪問機会はなかったが、住民の方より適宜「いっぶくせん会ね（正院集会所のお茶会）」への参加をお誘いいただいている。健康面で問題を生じている方はいらっしゃらないという情報提供があった。

【宝立町第1団地：宝立小中学校グラウンド153戸】訪問日：6月12日（水）、13日（木）

時間帯関係なく車で出入りされる様子が多く見受けられた。敷地内にある住民と学生が協働管理しているプランターの花は、強い日差しにも負けず、変わらず綺麗に咲いていた。掲示板には今後イベントに関する掲示が増えていた。行き交う住民の方々は、みなさん笑顔で挨拶されていた。

6. 支援活動の実際

【応急仮設住宅支援：正院町第1団地、第2団地】

n 要フォロー者支援

高齢のご夫婦二人暮らしで、妻に認知機能低下があるため、その介護に夫が疲弊している事例である。買い物のための手段が乏しく、訪問時、二日間食べるものがなくナッツを食べて過ごしていたと言われた。そのためすぐに集会所の支援物資を調理して届け、召し上がっていただいた。今後の対応について現地支援組織と情報共有した。

n いっぶくせん会ね（お茶会）開催

開催場所：正院町第1団地集会場

開催日時：6月11日（火）～13日（木）10:00～12:00

参加者数：6月11日（火）17人、6月12日（水）25人、6月13日（木）14人

正院第1団地、正院第2団地、蛸島団地、在宅の方々が参加された。

6月11日（火）

民生委員の方によるシルバーリハビリ体操が行われた。体操の際は、声に合わせてみなさんで身体を動かされており、笑顔も多く見られた。その後、健康講和の時間をいただいた。気温が上昇してきたこともあり、熱中症予防と蚊媒介感染症予防について、お話させていただいた。元々日常的にクーラーを使用されていなかった方、虫よけを使われていなかった方も多くいらっしゃり、多くのご質問をいただいた。（写真1）

6月12日（水）

外部支援者の訪問があり、表札づくりが行われた。色々な大きさの木の板の中から好きな大きさを選

んでいただき、そこに様々な柄のペーパーナプキンを切り貼りして作成された。好みの柄、色を探ることや、紙を切ることなど、互いに声を掛け合い協力しながら一生懸命作られており、あっという間に時間が経ってしまっていた。次週完成に向け、追加の作業を行うことになった。(写真2)

6月13日(木)

プランターへの花植えを行い、小学生が寄せ植えを行ったプランターと合わせ、敷地内に花を飾った。集会場の前にも色々な花が並べられ、また先月植えたグラジオラスが育ってきており、カラフルな花とグラジオラスの緑が合わさり、晴天下で映えていた。当日、気温が29度まで上がり、雲一つない陽気であったため、適宜休息と水分補給をお願いしながら、作業していただいた。

【応急仮設住宅支援：宝立町第1団地】

n 集いの会(お茶会)開催

開催場所：宝立町第1団地集会場

開催日時：6月12日(水)13:00~15:00

参加者数：19人

ささえ愛センターの方々にもご協力いただき、住民の方々とハーバリウム作りを行った。それぞれが好みの大きさの瓶を選び、花などを瓶につめながら「どうかしら?」「もうちょっといれた方がいい?」「緑のものどっかにある?」など、お互いに声を掛け合いながら、それぞれが個性的な作品を作られた。最後に全員の作品を前に並べ、互いに向けた拍手が沸き起こった。また、熱中症予防と蚊媒介感染症予防についても、お話をさせていただいた。(写真3、写真4)

【在宅避難者支援】

現地支援組織の依頼にて、2件の在宅訪問を行った。

宝立地区：令和5年奥能登地震による被害で、みなし仮設に居住されているご家族の訪問を行った。車を持たれていないため、買い物や通院等不自由なこともあると話されるが、自転車や送迎サービスを活用しやりくりされていた。早急に対処が必要な事項はないが、父子家庭であり、父は持病、娘は障害があるため、健康増悪の予防と継続的な生活環境に向けた関わりが必要である。現地支援組織と情報共有し、今後のサポートについてご検討いただくこととなった。

大谷地区：独居の高齢男性、山間部に居住されている方の訪問を行った。腰痛があるため行動に制限が生じているが、コルセットを使用して生活は営んでいた。車両を使用し、買い物や通院を行い、家で自炊されていた。家の中はキレイにされていたが、所々壁が剥がれ落ちるなどして隙間が生じていることから、エアコンが効きづらい、害虫の侵入があることに困られていた。現地支援組織の担当者の方に状況を共有し、家屋の修繕等の支援につなげられないか検討いただくこととなった。

7. 支援活動を通しての所感と課題

【災害関連死予防】

夏季に向けた健康障害予防、個別の情報に応じた孤立予防への働きかけが重要である。現地では、夏季に向かい気温が上昇し、活動期間中は30度にいった日もあり、既に夏日が到来していた。日中は、畑仕事に行かれる方、家の片付けに行かれる方と屋外で活動される方も多く、熱中症に注意する

必要がある。また、急激な気温の変化に伴う体調の変化にも留意し、継続的に住民の方々の健康相談を行いながら、生活基盤になる衣食住の状況、そして慢性疾患の管理状況、新たな体調不良の兆しの評価と、多面的なアセスメントを行いながら、健康障害予防に働きかけていく。

孤立予防においては、特に見えづらい方の存在に留意していく必要がある。お茶会や各種イベントが継続的に開催されるようになり、多くの方が参加されている一方、参加されない方もいらっしゃる。発災から半年が経過し、こころのケアの側面では修復期をむかえる。こころの安定化が取り戻されていく時期であるが、安定していく方と幻滅状態が続き消極性が続いてしまう方と二極化が顕著に表れだす。中には、家からあまり出られない方、朝から飲酒されている方、他人との交流を避けられている方と、それぞれの思い、習慣を把握しながら関わりを続けていく必要がある。集まりに参加されている方の様子をうかがい、参加されていない方の状況にも目を向け、取りこぼしのない支援が展開できるように、注意深くかつ継続的に関わっていく。

【コミュニティ再構築】

各地域において、コミュニティ再構築に向けた話し合いの開催、自治組織の再編成、集会所等住民が集まる場所の整備が進んでいた。一方、話し合いの中核にいる方々の疲労が感じられた瞬間もあった。中核を担われている方の負担、思いを確認しながら、誰かに負担がかかりすぎぬよう注意し、関わっていく必要がある。住民の方々の多様な思いと活動がコミュニティの発展につながるよう、みなさんの健康面にも注意し、支援を継続していく。

参考：現地の様子

写真1．健康講和の様子



写真2．表札づくりの様子



写真3．ハーバリウム作りの様子



写真4．ハーバリウム完成品一覧



以上